

# 鹿角市小中学校情報機器整備事業に係る各種計画

鹿角市教育委員会

令和7年3月

(令和8年5月改定)

**【鹿角市】**  
**端末整備・更新計画**

|                     | 令和6年度 | 令和7年度 | 令和8年度  | 令和9年度 | 令和10年度 |
|---------------------|-------|-------|--------|-------|--------|
| ① 児童生徒数             | 1,666 | 1,574 | 1,484  | 1,418 | 1,361  |
| ② 予備機を含む<br>整備上限台数  | 0     | 0     | 1,600  | 0     | 0      |
| ③ 整備台数<br>(予備機除く)   | 0     | 0     | 1,484  | 0     | 0      |
| ④ ③のうち<br>基金事業によるもの | 0     | 0     | 1,484  | 0     | 0      |
| ⑤ 累積更新率             | 0     | 0     | 100.0% | 0     | 0      |
| ⑥ 予備機整備台数           | 0     | 0     | 32     | 0     | 0      |
| ⑦ ⑥のうち<br>基金事業によるもの | 0     | 0     | 32     | 0     | 0      |
| ⑧ 予備機整備率            | 0     | 0     | 2.2%   | 0     | 0      |

※①～⑧は未到来年度等にあつては推定値を記入する

(端末の整備・更新計画の考え方)

- 令和2年度に整備したタブレット端末の劣化・故障等が多く見られるため、学校が安心して使用できる端末を整備する必要がある。
- 予備機は児童生徒数の減少傾向を勘案し、各校に3～5台とする。

(更新対象端末のリユース、リサイクル、処分について)

- 対象台数：1,996台（令和2年度調達分）
- 処分方法
  - ・使用済端末を公共施設や福祉施設など地域で再利用 : 0台
  - ・小型家電リサイクル法の認定事業者へ再使用・再資源化を委託 : 1,996台
- 端末のデータの消去方法 ※いずれかに○を付ける。
  - ・自治体の職員が行う
  - ・~~処分事業者へ委託する~~
- スケジュール（予定）
  - 令和8年5月 処分事業者 選定
  - 令和9年1月 新規購入端末の使用開始
  - 令和9年1月 使用済端末の事業者への引き渡し

## 【鹿角市】 ネットワーク整備計画

### 1. 必要なネットワーク速度が確保できている学校数、総学校数に占める割合（％）

- ・ ネットワーク速度が確保できている学校数 10校
- ・ 総学校数に占める割合 100％

### 2. 必要なネットワーク速度の確保に向けたスケジュール

#### （1）ネットワークアセスメントによる課題特定のスケジュール

本市においては、簡易調査にて文部科学省が示す「当面の推奨帯域」を満たしていない学校が4校ありましたが、令和7年度実施のネットワークアセスメントにおいては、4校とも推奨帯域を満たしており、アクセスポイント等のネットワーク関係にも問題はありませんでした。

#### （2）ネットワークアセスメントを踏まえた改善スケジュール

令和7年度実施のネットワークアセスメントの結果、現時点では直ちに対策を講じる必要はないと判断しました。

今後は、令和10年度以降に予定しているネットワーク環境の更新に向けて、将来的に求められる通信帯域や、減少が見込まれる児童生徒数の状況に応じて、通信回線や機器構成の見直しを含めた検討を進めます。

## 【鹿角市】 校務DX計画

秋田県では、校務のデジタル化により教職員の働き方改革を進めることで、児童生徒一人一人に向き合う時間を確保するとともに、介護や子育て中の教職員の働き方を柔軟化し、負担を軽減することを目指し、令和5年度、フルクラウド型の秋田県小中学校等統合型校務支援システムを構築しています。

鹿角市は、「GIGAスクール構想の下での校務の情報化に関する専門家会議」の提言や「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」による自己点検の結果等を踏まえ、システムの活用において、保護者連絡システムでの欠席等情報や、学校等欠席者・感染症情報システム等とのデータ連携により、手入力作業の大幅な削減に取り組んでいます。また、学習者用端末において学習振り返り支援ツールを利用し、そのデータを校務支援システムに連携させることにより、校務系・学習系データの統合と可視化による業務の高度化を図っています。これを契機に紙ベースの業務見直しや、FAXでのやり取り・押印の見直しを推進します。

多要素認証等の強固なアクセス制御を前提としたセキュリティ対策の下、パブリッククラウド上のシステム活用により、ロケーションフリーでの柔軟な働き方の実現が可能となるようルールを見直します。

また、県共通テナントでのアカウント利用により、汎用クラウドツールの共通化が可能となるため、学校関係者のコミュニケーションの活性化を図ります。

校務支援システムの活用により、有事の際でも、教職員・児童生徒の安否確認、オンライン授業で学びを継続させる等、優先度の高い業務の継続性を担保します。

## 【鹿角市】

### 1人1台端末の利活用に係る計画

#### 1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

本市の教育目標は、「心豊かでたくましく郷土を愛しその発展に尽くす市民を育む教育を進める」である。目標の実現に向けて、GIGAスクール構想の下、児童生徒の情報活用能力及び教員のICT活用指導力の向上を図り、各教科等におけるICT活用を推進する。さらに、1人1台端末を活用して「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」を実現させていく。

#### 2. GIGA第1期の総括

令和2年度、市内全10校に1人1台端末の整備と無線ネットワーク環境を整備しており、各教室や特別教室、体育館などからインターネット接続、授業支援ソフト、デジタルドリルを利用しているほか、他校や外部とのオンライン交流にも利用している。1人1台端末によって、授業だけでなく学校行事や特別活動等での活用のほか、持ち帰りによる家庭学習にも活用するなど、各活動の充実につながっている。

令和4年度には、電子黒板の増設とICT支援員の配置を行った。電子黒板を増設することで、各学級での使用頻度が高まり、授業において個別最適な学びと協働的な学びを支えている。また、ICT支援員を配置することで児童生徒の情報活用能力の向上のサポートに留まらず、教員のICT活用指導力の向上や業務改善に大きく貢献している。

課題としては、「情報モラル教育」が挙げられる。「情報モラル教育」については、各小・中学校において、情報モラル教室等を定期的で開催するなどしてきた。一定の効果も見られるが、今後も学校や家庭と連携して、継続した指導が必要となる。

#### 3. 1人1台端末の利活用方策

今後、「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」を実現させていくために、各小・中学校や研修団体において研究を推進していく。GIGA第1期において、児童生徒の情報活用能力及び教員のICT活用指導力は確実に向上していることから、授業における1人1台端末のより効果的な利活用について検証を進め、授業研究会や研修会を通して情報を共有していく。

「個別最適な学び」については、児童生徒一人一人のスキルアップが欠かせないことから、ICT支援員によるサポートをさらに充実させていく。また、不登校の児童生徒に対しても、個々の端末へリモート接続するなどして、学びの機会の保障につなげる取組について検討する。

令和7年度より導入した新校務支援システム運用などにより、校内ネットワーク負荷が大きくなることに対して最適にするとともに、新たに導入される端末においても適切に利用できる環境整備に努めていく。